

ふたりはともだち

アーノルド・ローベル 作

三木 卓 訳



文化出版局 ミセスこどもの本

ふたりは ともだち

作 アーノルド・ローベル／訳 三木 卓

1972年11月10日 第 1 刷発行

1999年12月 7 日 第123刷発行

発行所／〒151-8524 東京都渋谷区代々木 3 丁目22番 1 号 **文化出版局**

電話 03(3299)2480(編集) 03(3299)2542～8(販売)

印刷 文化カラー印刷／製本 大口製本

万一乱丁落丁がありましたらお取替えいたします。

NDC 726 64P

21.0×14.5cm

ふたりはともだち



アーノルド・ローベル 作
三木 卓 訳

ミゼズこともの本

文化出版局

For Barbara Borack

Frog and Toad are Friends by Arnold Lobel

Copyright © 1970 by Arnold Lobel

All rights reserved.

Originally published by Harper & Row,
Publishers, New York.

Copyrighted and published in Japan
by Bunka Publishing Bureau.

Japanese translation rights arranged
with Harper & Row through Japan
UNI Agency, Inc.

もくじ

はるか きた 4

おはなし 16

なくした ボタン 28

すいえい 40

おてがみ 53



はるか^が きた

かえるくんは、おおいそぎで はしって、
がまがえるくんの いえを たずねました。
げんかんの ^{どあ}ドアを ^{こっこっ}コツコツ。

でも、へんじが ありません。

「がまくん、がまくん」かえるくんが ^{おお}大きな
こえで よびました。

「おきなよ、はるか きたんだよ!」

「でたらめ いってらあ。」

いえの ^{なか}中から こえが しました。

「がまくん! がまくんたら!」

かえるくんは さけびました。



「お日^ひさまが きらきらして いるんだよ！
ゆきなんか とけちゃって いるよ。おきなよ！」
「ぼく ここに いないよ。」
さっきの こえが いいました。



かえるくんは いえの ^{なか} 中 にはいりました。
まっくらです。

あまどは みんな しまっ ています。

「がまくん。きみは どこに いるの？」
かえるくんが よびました。

「あっち いけよ。」
へやの すみから こえが しました。
がまくんは ^{べっど} ベッドに ねて いました。



ふとんを すっかり あたまから
かぶって いました。

かえるくんは がまくんを ベッドから
おしだしました。 いえから おしだして、
げんかんの まえに つれて いきました。
がまくんは ぎらぎらする ひなたで ^め目を
ぱちくりさせました。

「たすけて くれよ！」

がまくんが いいました。

「なんにも ^み見えないよ。」

「ばかな　こと　いうなよ。

きみが　^み見ているのは

4^{がつ}月の　すきとおった

あたたかい　ひかりなんだぜ。

つまり、ぼくたちの　あたらしい　^{いち}一ねんが

また　はじまったって　こと　なんだ。がまくん。

その　ことを　おもって　ごらんよ。」

かえるくんが　いいました。

「ぼくたち、くさはらを　とびはねながら

とおりぬけられるよ。^{もり}森を　かけぬける

こともできるし、^{かわ}川で　およぐ　ことも

できるんだぜ。

ばんには　いま　いる　げんかんの　まえに

いっしょに　すわって　おほしさまの

かずを　かぞえるんだ。」



「かえるくん、きみが かぞえれば いいさ。」

がまくんが いいました。

「ぼくは すっかり くたびれて

いるだろうからね。

ぼく もっと ねるよ。」

がまくんは いえに もどりました。

べっど
ベッドに はいると、また、あたまから
ふとんを かぶりました。

「でもねえ、がまくん。」

かえるくんが さげびました。

「きみは おもしろい ことを
みんな のがしちゃうよ。」

「ねえ、かえるくん。」がまくんが いいました。

「ぼく どの ぐらい ねむっていた？」



「11月^{かつ}からだ。」

かえるくんが いいました。

「それじゃあ、」

がまくんが いいました。

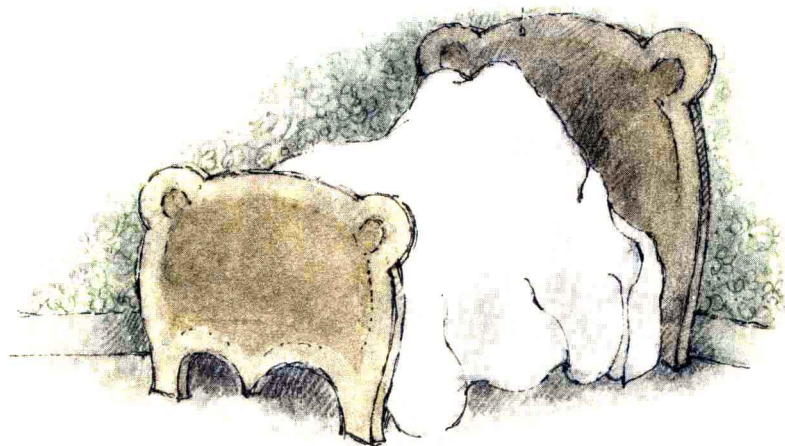
「もう すこし ねむったって わるくないだろ。

5月^{かつ}の なかばごろに なったら、

もう 一^{いつ}かい きて

おこして くれたまえよ。

おやすみ かえるくん。」





「でもねえ、がまくん。」

かえるくんが いました。

「それじゃ それまで、ぼく さびしいよ。」

がまくんは へんじを しませんでした。

もう ねむって いたのです。

かえるくんは がまくんの ^{か れ ん だ -} カレンダーを
^み 見つめました。

いちばん^{うえ}上は まだ 11^{がつ}月になって

いました。かえるくんは 11^{がつ}月を やぶきました。

12月^{かつ}も やぶきました。

1月^{かつ}も。

2月^{かつ}も。

そして 3月^{かつ}も。

4月^{かつ}が でて きました。

4月^{かつ}も やぶいて しまいました。



それから がまくんの ベッドへ
はしって もどりました。

「がまくん、がまくん。おきなよ。
もう 5月だよ。」

「なんだって？」がまくんが いいました。

「5月って そんなに はやく くるのかなあ？」

「そうだよ。カレンダーを ごらんよ。」



がまくんは カレンダーを 見ました。

いちばん 上は 5月でした。

「おやおや ^{かつ}5月だ。」

がまくんは、ベッドから はいおりながら
いいました。

それから ふたりは、はるに なると、
よのなかが どんな ふうに ^み見えるか
それを しらべに そとへ でて いきました。

